

星を身近に 感じられる場所

私たちが普段何気なく眺める夜空。そこには無数に輝く星があります。今号では、星を観察したり、星について学んだりできる市内の2つのスポットをご紹介します。空気が澄み渡るこれからの季節、星のことを考えてみませんか。

「星空がきれいに見えるまち」
に整備された輝北天球館



輝北天球館4階の天体観測ドームに設置されている望遠鏡は、口径65cmの「カセグレン式反射望遠鏡」と呼ばれるもので、県内では最大の望遠鏡。また、学術研究の専用ではなく、一般の人も見ることができ一般公開天文台としては日本最大級の大きさを誇ります。望遠鏡内にある2枚の鏡に光を反射させて、像を映し出す仕組みです。



旧輝北町は、昭和63年から平成25年まで当時の環境庁が開催していた「全国星空連続観測」で平成3年の夏から翌年の冬にかけて「日本一星空がきれいに見える場所」という結果に輝きました。それを受けて平成7年に建設されたのが「輝北天球館」です。

輝北天球館がある「輝北うわば公園」は標高約550mに位置しています。標高が高いということは、単純に星に近くなることに加えて、気圧も低くなるため、平地よりも空気が澄んでいます。また、鹿屋の市街地と鹿児島市の光は高隈山と桜島がそれぞれ遮っているため、外からの光が届きにくく、夜空を観察するのにとても適した環境となっています。



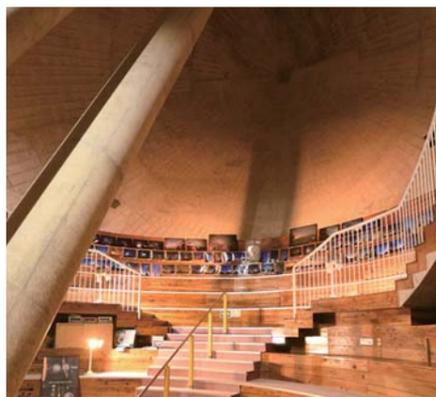
輝北天球館
たけい たかし 館長
竹井 高志

天体観測に適した場所に 建設されて25年

天と地を表す独自の建物

輝北天球館は、空に伸びた柱とラグビーボールのような楕円状の形が特徴の建物です。ラグビーボールの内部にあたる場所は、「ゼロの空間」と呼ばれる部屋で、宇宙を表しています。天井の先に向かって線が放射線状に伸びており、まるで吸い込まれるような感覚になります。また、階下には輝北の山の本々を表した複数の柱が建物を支えています。天球館全体で宇宙と輝北を表しており、中からも外からも楽しめると思います。

この芸術性を生み出したのは、鹿児島県出身の建築家、高崎正治氏たかき まさち。現在、世界で活躍する高崎氏は、輝北天球館の建築で「第8回日本建築家協会新人賞」を受賞されました。



▲「ゼロの空間」の天井部